

大会宣言

私たちが共有し、経験した社会党・総評、労働者政党と労働運動の「支持・協力関係」の51年の歴史は様々な評価を受けてきました。社会党が社民党（96年）へ引き継がれ、今日まで24年の歴史を私たち党員は不十分な面はありながら担ってきました。その社民党が政権の受け皿としてある野党第1党の「立憲民主党」から、「合流」が提起されました。党内議論を約1年間にわたり積み上げ、その集約として社民党全国臨時大会が開かれ「2つの選択」が採択されました。それを受けて社民党千葉県連合は「立憲民主党との合流」を提案し、今大会において採択されました。私たちは、この半世紀にわたって揺れ動いた党・労働運動について考えさせられてきました。社会の担い手である働く者の「窮乏化の実態」にどう責任を持つのか、労働者党の魂と労働者、労働運動の関係性の立場から判断をしてきました。

私たちの置かれている日本資本主義経済社会は「資本主義の限界」といわれて久しく、今では資本家・財界からも「行き詰まり」が語られ、「資本主義の転換」「持続可能な資本主義」が模索され、「デジタル化の加速」（第4次産業革命）が掲げられています。安倍政権の7年余にわたるデフレ克服「アベノミクス」は失敗し、「停滞」「衰退」「行き詰まり」、働く者は雇用の多様化、正規と非正規からコロナ下では「雇用によらない働き方」フリーランスへとすすみ、「生活と暮らしの不安定」が増していく状況にあります。「働けどわが暮らし楽にならざり」（石川啄木）時代よりも子育てが厳しい現代少子化社会、親の世代よりも子供の世代が貧しい「絶対的貧困化」が進んでいます。

2021春闘に向け経団連は「賃上げが難しい」としています。私たちの合流する野党第1党の「立憲民主党」を支える労働運動のナショナルセンターである連合は、「働きの価値に見合った賃金」「経済や社会を支える財源」「働く者の生活の底上げ、底支え」を、春闘のみならず労働運動の柱にしています。加えて私たちは資本の系列下にある中小、未組織労働者の無権利状態に目を向けて、労働組合づくり等に汗をかく取り組みの中での信頼構築が求められていることを確認しました。私たちの日常生活、社会の営みの土台は労働であり、その働く者が社会の一切の富を生み出し、社会の主人公であることに学び「立憲民主党」の一員として共感される活動を強めていく決意を固めました。

県民の皆さん、私たちは憲法を守り、街に福祉・国に平和を掲げ、働く者、市民との連帯を求め活動を続けてきました。これからも沖縄の反基地闘争と連帯し木更津基地でのオスプレイの定期整備と暫定配備反対、環境破壊の産業廃棄物処分場建設反対、福島原発災害を忘れない原発ゼロなど、県民の福祉、医療、安全、安心を守る取り組みを強めていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大ストップ、命・生活・雇用等を守るため全力を挙げます。そして、次期衆議院選挙では野党が力を合わせ、野党勢力を拡大し、自民党政治に歯止めをかけましょう。

最後に社民党党首福島みずほ参議院議員には千葉県をはじめ全国津々浦々に足を運んで頂き、私たち党員を励まして頂いたことに深く感謝をし、福島党首と共に「社民党に残る」党員の皆さんには「反自民」で連帯の絆を絶やさないで行きます。

2020年12月19日

社会民主党千葉県連合第28回臨時大会